



第78巻 第2号
年4回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田3-15-2
TEL 03-3387-5567
<http://www.jiseikai.jp>
振替口座 ベタニアの家
00170-6-15317

那須の「聖マリアの山」の 活用と管理を考える

櫻井 正昭

慈生会の障害者支援施設「マ・メゾン光星」は、栃木県那須町の「聖マリアの山」の一面にあります。この山林は、創始者のフロジャク神父が、旧宮内省から一九四六年に無償貸付を受け、没後の一九六五年に払い下げられたものです。

神父は一九〇九年、二三歳の時にフランスのパリ外国宣教会から日本に派遣され、宇都宮の松が峰を皮切りに数か所異動し、九年後に東京の関口教会に赴任して、寝食を削って宣教活動に全力を注いでいました。

来日一八年目の一九二七年の七月に、たまたま他の神父に頼まれて、結核で入院中の関口の青年信徒を見舞うために、当時の東京市立中野療養所を初めて訪れ、結核患者が置かれていた絶望的な状況を目のあたりにして、非常に心を痛め、その後は自発的に毎金曜日に通うようになり

ました。さらに三年後の一九三〇年の六月には、療養所の近くに「ベタニアの家」を新築して、完治もしないのに強制的に退院させられ、行先のない男性患者一五名を収容しました。時に四四歳、このことが神父の後半生の第一歩となりました。

その後清瀬村に土地を求め、回復期の患者のために、療養農園「ベトレヘムの園」を開設しました。このように結核患者の救済事業に奔走する姿は、皇室にも知られるところとなり、資金難に直面した神父に対して、一九三二年に当時の金額で五千円のご下賜金が支給され、苦境を脱することができ、この頃から宮内省とのつながりができました。

中野と清瀬で、困窮結核患者のため事業を拡大してきましたが、やがて日本は太平洋戦争へ突入し、国民は塗炭の苦しみを味わいました。

ようやく一九四五年に終戦を迎えましたが、上野駅の地下道にたむろする浮浪者の群れを見た神父は、急きょ「ベタニア巡回診療班」を組織

して救護活動の陣頭に立ちました。

宮内省の木下侍従次長は、これらの活動を高く評価していました。終戦の翌年に神父は、その木下次長を通じて、戦後の日本人の栄養不足を解消するため牧畜の普及を図ることと、カトリック村を建設したいと申し出て、那須岳東麓の近接二か所の御料地三〇〇町歩の貸付を受け、標高の低い方を「聖ヨゼフの山」、奥を「聖マリアの山」と命名しました。直ちに戦地からの引揚者を受け入れ、開墾に着手し、僻地に電線を引き、仮診療所を開設しました。また数年後、結核のアフターケア施設、養護施設、林間学校、黙想の家、修道院、農業牧畜養魚園芸の経営などを含む那須開発構想を発表しました。

特効薬の普及で結核患者は急速に減少し、栃木県からはアフターケアよりも知的障害児施設を求められ、一九五六年に「光星学園」が認可されました。三年後に神父は志半ばにして、那須に夢を遺しながら七三歳で帰天されました。学園はその五年後に成人対象の施設を併設し、さらに成人施設に一本化して現在の「マ・メゾン光星」に至っています。

「聖マリアの山」は、元々は新緑と紅葉が美しい落葉広葉樹林だったと推測されますが、一部は畑や牧草地として開かれ、牛舎や鶏舎も設けられ、施設利用者の日中活動に供

されて来ました。林下でシイタケ栽培も行われていましたが、八年前の東日本大震災の際の福島第一原発事故による放射能で汚染され、現在も食用化の用途は立っていません。

樹林についても、アカマツ、カラマツ、スギ、ヒノキなど針葉樹の植林が適宜行われましたが、国産材の需要が低迷し、また枝打ち、間伐などの手入れが十分なされて来なかったこともあり、以前から森林管理の方法が大きな課題でした。そこで那須町森林組合に相談したところ、作業道が用意されれば、伐採や植林がやりやすくなり国の補助の対象にもなり得ると示唆され、荒れていた第一と第三農道の二ルートを、七年前に改良しました。併せて所有地南西側の境界である溪流に沿って、遊歩道を兼ねた管理道を開設しました。

これらの道は、「マ・メゾン光星」の職員アンケートの結果、第一農道は「こもれびの道」、第三農道は「まきばの道」、遊歩道は「せせらぎの小道」と名付けられました。昨年は袋小路だった「まきばの道」を延長して通り抜けられるようにするなど、順次道路の整備を進めています。フロジャク神父が、もしこの時代にご存命なら、何を優先され、どのように山林を活用されるだろうかと思像しながら、適切な管理の在り方を考えたいと思っています。

(慈生会常務理事)

新総長として

田代 嘉子

この度、不肖ながら総長の役割を受け継ぐことになりましたシスター田代です。どうぞよろしくお願いいたします。会の厳しい現状、課題やこの先にある困難ばかりを考えていても解決の道はなく、神様のはからいに「ハイ」と応え、みことば「神の恵みは弱さ、小ささをもつ私たちを通して働かれる」（Ⅱコリント十二）に信頼して、すべてを委ねて仕える心で前に進んで行きたいと思っています。

何と言っても創立者フロジャク神父様の遺志を継ぐ私たちは、創立の動機を繰り返し思い起こし、「いつの世にも絶えない貧しい人々、苦しんでいる人々、悩んでいる人々、見捨てられた人々、そのような人々の社会にあなた方を奉獻する。聖ベルナデッタのように微笑みながら、祈りながら、いつも人々に奉仕しない。そしてこの精神から決して離れないように」と姉妹を諭していたこの言葉を観想し、実践する者であることを受けとめています。

私たちベタニア修道女会は六年毎に定期総会の時を持ち、そこでは「祈りのうちに歴史を振り返り、現

状を識別し、将来への可能性を選び取り、相互一致のうちにそこに進み行こうとする出発」となります。

第一回は会の創立一九三七年六月四日に教区立の修道会として認可された後、十年目にして最初の会の長上等の選挙が行われました。今回は第十三回定期総会として昨年十一月十六日から二十三日に開催され、最終日に総長選挙が行われました。

今年設立認可から八十二年目を迎えますが、フロジャク神父様が一九二七年七月十九日（ふとしたことから東京市立療養所に入院している一人の結核の病に臥す青年を見舞った日）に会の誕生の起源をおくと、九十二年と数えることもできます。会の草創期に創立者と苦難を共にしてきた会員たちは天国に旅立ち、創立者の生前を知る会員はごく少数で、心細く思いますが、これからもベタニアの家（フロジャク神父を神の愛に駆り立てたカリスマに属し、共有し、協働している家族）の皆様の祈りとご支援をお願いいたします。

この六年間の歩みを「協働」という新しい視点で共に新しい道を歩み始める、創立のカリスマの火を燃やし続けるために」としました。

（ベタニア修道女会総長）

中野区社会福祉法人協働事業プロジェクト

「フードドライブ」に参加して

森 乃里子

徳田保育園は、カトリックの精神に基づく八十年近い歴史ある保育園ですが、時代の変遷と共に社会福祉法人として、公益性のある事業参加に乏しくなっていると感じておりました。そんな中昨年九月に中野区社会福祉協議会より、フードドライブへの参加のお誘いがあり、保護者の方々・職員とともに行う社会貢献の機会と捉えようと参加を決めました。

フードドライブとは耳慣れない言葉ですが、一般家庭にある食品を学校や職場、グループ等、様々な機関・団体が拠点となり食品を集め、集まった食品をフードバンク団体や福祉施設等に寄付する運動です。今回の協働事業では、区内のお子さんの貧困対策の活動をしている団体や支援している施設に配分されます。「パスタ一袋でも結構です。」と、各施設の協力できる範囲で良いと前もって言われており、楽な気持ちで始められました。

まず、収集期間や賞味期限、食品（未開封）の種類（缶詰・インスタント食品・レトルト食品・調味料等）を記載したポスターを掲示し、保護

者家庭・職員にもチラシを配布し、協力を依頼しました。食品は保育園事務所にて受け取ることでし、受け取る際には一品一品、食品の条件に該当するか、また賞味期限が守られているか等をチェックします。

お持ちいただいた品は、乾麺・ラーメン・缶詰（さば缶・桃缶・みかん缶・あんみつ缶）ジュース・いちごジャム・レトルトカレー・ミートソース・お菓子等、お子さんが喜びそうな品々がたくさん集まりました。

お子さんを小脇に抱え、重たい食品の袋をお持ち下さったお母様方、二度に渡りビニール袋にたくさん甘味をお持ち頂いたお祖母様、そしてまだ若い保育士たちも協力してくれました。

この機会を通して、お話することのなかった保護者の皆様に感謝をお伝えすることが出来、会話が弾みそのひとときに幸せを感じました。

食品は七十六品、十八・三キロも集まり、江古田の森の収集場に運び入れることが出来ました。区内十八法人の参加となり全部で九一四品集まり、子ども食堂・福祉施設などお子さんの関係七団体に手渡されました。

今年度も保護者の皆様のご協力を得て職員の協力の元に取り組んで参りたいと思っております。

（徳田保育園園長）

パン作り教室を実施して

屋代 磨



昨年七月から今年の一月にかけて、慈しみの家にてパン作り教室を開催しました。パン作りを経験されていない方のために簡単にパン作りの方法を説明しますと、生地を捏ねる↓一次発酵↓分割↓成型↓最終発酵↓焼成となりますが、参加者の方々には、分割から成型までを行って頂きました。私自身初めてパンを手作りした際は、現在のように簡単に動画や情報を得られる時代ではなかったため、とてもワクワクした記憶があります。参加して頂いた方には楽しんで作業して頂くことを第一に考え、



同時にお店で食べるような美味しいパンを作ることと考えて計画し作業に当たりました。今回はバターロールを作成しましたが、作業工程も多く、少し難しかったかなと思いましたが、きれいに焼き上がるパンが多く、少しでも目標に近づけたかなと思っています。

今回は初めてパン作りをする方が多く、楽しんで頂けるような取り組みが出来たか、修正しなければならぬ箇所も見えてきました。その中でも部署間の垣根を越えて取り組めたことや、試食会の際に参加者の方の笑顔を見ると、少しはお役に立てたのかなと感じています。

今年度も引き続き二回目のパン作り教室を実施する予定です。今後、デイサービスや特養にも広げていけたらと考えています。入居者の方にも、職員の方にも「ワクワク感・やさしさの共有」を提供出来ることを目指して取り組んでおりますので、今後もし協力、ご指導くださいますようお願い致します。

(ベタニアホーム・栄養給食部門)

「じっくり向き合う」
学習支援【はなみずき】

大和 理恵

毎週火曜日の夕方、静かなベトレームの園病棟の廊下に、子どもたちの元気な声が響きます。学習支援「はなみずき」小学生の部の始まりです。

ここ数年かけて、「病院」⇨「病気を治療してもらうところ」というイメージから「いつでも誰でも立ち寄れる場所」⇨「病院」を目指して、いくつかの取り組みを始めています。それが社会福祉法人の責務としての「地域公益事業」につながっています。今回は立ち上げるまでの準備を中心に投稿させていただきます。

平成二十九年の秋ごろから「学習支援」の準備を開始しました。始めるに当たり学習支援と一緒に携わってくれる仲間が必要でした。そこで当院の事務当直を担っている日本社会事業大学の学生を誘ってみましたところ「ぜひ携わってみたい」と快諾を頂き、その思いに後押しされ準備に取り掛かりました。

支援を実施するにあたり、院内のどの部屋を利用するか苦慮しましたが、日中はボランティアやワークサ

ポート（中間的就労支援）で使用している部屋（図書室）を、週一回夕方から有効活用しようということになりました。また受け入れる人数に關しては、部屋の広さと、目の行き届きやすさを考慮し、小・中学生各十名としました。

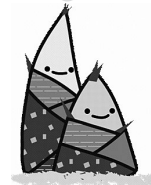
一番の難関は、どのように宣伝をしていくかということでした。普段は高齢分野での業務が中心だったため、子ども分野は地道に開拓をしていくしかありません。まずは「地域」からと思い、民生委員・主任児童委員の方々に声を掛けました。そのことがきっかけで、学校・子ども家庭支援センター・スクールソーシャルワーカーと繋げていただき、改めて地域の力を感じることができました。

準備を終えて、平成三十年六月より小学生の部（実際の始動は七月）、七月より中学生の部を開設しました。そこには学生たちが、試行錯誤しながら子どもたちと根気よく向き合い、大事に、大事に関わっている姿がありました。子どもたちも表情や反応に変化があり、支援を始めてよかったと思う場面に何度も出会っています。まだまだ駆け出しの一年ではありますが、細い力で継続し、またこのような機会にご報告できたらと思っています。

(ベトレームの園病棟事務次長)

ベタニアの家

四月行事予定



1日 慈生会 新任職員
オリエンテーション
9日 東星学園中高部 入学式
12日 東星幼稚園 入園式
13日 東星学園小学校 入学式
ベタニア宣教センター主催
「わが転落人生に悔いなし」
伊藤 淳神父

14日 ☆受難の主日 (枝の主日)
☆世界青年の日

18日 ☆聖木曜日
19日 ☆聖金曜日

20日 ☆聖土曜日 復活徹夜祭

21日 ☆復活の主日

28日 ☆神のいつくしみの主日

4月27日 5月6日
《即位10連休》

29日 東星学園 ヨゼフ祭 舞台発表

五月行事予定

1日 ☆労働者聖ヨセフの祝日

11日 東星学園 創立記念日 ミサ

ベタニア宣教センター主催
「聖母マリアとともに」

シスター松本主世

12日 ☆世界召命祈願の日

14日 聖ヨゼフ山の家

16日 ベタニア宣教センター主催
一般信徒黙想会

18日 東星学園小学校 春の展示即売会

26日 ☆世界広報の日

六月行事予定

2日 ☆主の昇天

2日 ベタニア宣教センター主催
ミニコンサート (アルパハーブ)

5日 慈生会 理事会 高橋咲子氏

9日 ☆聖霊降臨の主日

12日 慈生会 職員研修
「キリストの心に
触れるパートI」

16日 ☆三位一体の主日
指導 ベタニア修道女会

20日 慈生会 評議員会

23日 ☆キリストの聖体

27日 ベタニアの家創立記念ミサ
永年勤続表彰

28日 ☆イエスのみ心
ベタニア修道女会

設立認可記念日

シスターアスナ 大場 嘉代子



一九三二年三月二十五日生
一九六六年十二月十七日生
二〇一八年十二月二十五日生

シスターアガタ 本間 かつ子



一九二九年十一月四日生
一九五六年十二月十七日生
二〇一九年三月十一日生
ベタニア修道女会

金 祝・銀 祝

去る二月十六日、大倉神父様の司式により聖ベルナデッタ修道院聖堂にて金祝・銀祝の感謝のミサが行われました。ミサ後のお祝いはベタニア宣教センターに移動し、会の保護の聖人 聖女ベルナデッタの祝日(二・一八)にちなんで毎年行なっている「ベルナデッタ祭」と合わせ、姉妹の交わりのひとときを過ごしました。これからの創立のカリスマの火を消すことなく燃やし続けられるよう日々の小さなお捧げを果たしていきます。

金祝者

シスターバルバラ 重永 孝子

シスターメルセデス 伊藤由紀子

シスターレミ 乙黒 靖子

シスタールネ 木村 悦子

シスターカローラ 藤井 純恵

シスターエリカ 松永 泰子

シスターアンジェラ 松浦 和子

銀祝者

シスターバジリア 北村 麗子

(ベタニア修道女会)



編集後記



ベタニアホームはこの冬、利用者のインフルエンザ感染者がいまませんでした。これは、面会に来られるご家族の協力やホームの感染症対策委員会メンバーの努力と職員一人ひとりが手洗い、うがい、マスクの着用と意識を高めた成果ではないかと思っております。これからも、とにかく感染者0を目指して…。

平成三十一年四月一日はケアハウス「慈しみの家」創立二十周年になります。ご報告まで。(中村 英男)

今年の復活祭は四月二日でした。今年に比べると遅く、あたたかなご復活祭が期待されますね。何事につけ始まりの時と言うのは緊張とともに気持ちも新たになります。新しく入職された皆様もドキドキとワクワクのスクランブルの中で何か一つでもステキな目標を見いだせると良いですね。そしてそれぞれの目標に向けてのスタートとそこの道に神様の祝福と勇気が注がれますように。(原田 直人)

はじめまして、今号から編集会議に参加することになりました。

この一月からこの先六年間、イエス様が話を聞きに集っていた五千人に食べものを与えるため、少年が差し出した五つのパンと二匹の魚を用いた福音の箇所(ヨハネ六・一〜一四)を祈り文にし、皆で唱えることになりました。貧弱でとるに足りないわずかなものという思いに抗いながら、イエス様の御手にお委ねする…おとととそれのもいつの間にか忘れノックしてくれる日々です。(Sr中野利恵)